

令和7年度第1回目石狩浜海浜植物保護センター運営委員会 議事録

- 1 日 時:令和7年10月27日(月)10時00分～
- 2 議 題:①令和7年度事業計画の修正について
②令和7年度事業経過について
③その他3 運営委員
- 3 出席者:溝渕 清彦、長谷川 理、西川 洋子、氏家 歴、松島 肇、小林 卓也、鈴木 玲
- 4 事務局 中野センター長、高橋、いしかり植物ラボ(内藤)

【事務局】 定刻となりましたので、令和7年度第1回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会を開催させていただきます。氏家委員がまだ参加されておりませんが、先に進めさせていただきます。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。当運営委員会事務局の中野と申します。最初にですが、第1回目の開催時期が遅くになりお詫びさせていただきます。本日の開催は対面とオンラインで開催しております。

石山委員、圓谷委員は所要のため事前に欠席の報告をいただいております。
それでは議事進行について、溝渕会長にお願いして議事を進めてまいります。

【溝渕会長】

事務局からも報告がありましたが、第1回運営委員会の開催がかなり遅くなりました。ご担当者の方の事情も伺っておりますが、例えば第1回は毎年5月中旬に開催するなど、あらかじめ時期を決めていただければと思います。ご検討どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事1について説明をお願いします。

【事務局】

資料1-1の2から7ページについて説明。

補足:赤字部分が前回の委員会から修正・見直し。

【溝渕会長】

22 ページ以降のアンケートについて、イベントはすでに終わっているので、集計結果ではなく感想でもよいので、後ほど教えていただければと思います。

また、2～7 ページの項目の空欄には、該当するページ番号が入るという認識でよろしいでしょうか。

上記の回答とあわせて、議題2の中間報告をお願いいたします。

【事務局】

資料 1-1、8ページ以降について説明。

補足:到達目標と結果について同じページで見られるようにしてほしいというご意見を整理し、2～7 ページには詳細を書かず、関連ページのみの記載とし、各詳細報告で到達目標と結果を横並びに標記する形を検討しております。

【溝渕会長】

報告ありがとうございます。今回の開催時期が例年と異なっていることもありますが、事業方針2と3の報告について今後のスケジュールを共有いただけないでしょうか。また先に触れた、アンケートの感触と、環境学習の事業について所管や今年度における課題についてお知らせいただけますでしょうか。

【事務局】

方針2つ目の調査研究についてですが、今年度も野外での調査は継続して実施しております。ただ、結果のまとめについては閉館後にする業務内容となっておりますので、11月以降にまとめる予定です。

イベントにつきましては、はまなすフェスティバルが来場者600名となっておりますが、観光課と連携をし、周辺の施設と一体的に『いしかり本町灯台とハマナスDAY』として開催しております。今年度の感触につきましては、はまなすフェスティバルをめぐりて来る人と、周辺のイベントの周遊で半分ずつ占めている様子です。観光課から聞いているのは、国道からカイトが上がっている様子を見て、めぐりてくるということもあるようです。

今年度のイベントについてですが、昨年1日だけ試験的に実施したハマナスの実摘み体験を、今年度は夏休みの企画に合わせて数日間実施しました。天気に左右されますが、30名程度の参加があり、中には実摘みを目的にご参加した方もいました。今回の実摘みをきっかけに、海浜植物を知るきっかけづくりにはなったのではないかと考えております。また、本来捨てるはずの植物を活用したブーケづくり体験をサケ祭りの際に実施し、アンケートを通じて展示を見ていただくようなきっかけづくりにもつなげて実施しました。環境学習については、学校からの要望もあるので年変動することが多いので一概に人数の比較はできませんが、閉館後には高校生の修学旅行の受け入れが新たにありますので、センターの役割として新しい一面となると考えています。

【溝渕会長】

体験学習事業や展示室について年度目標をあげていますが、手ごたえとしていかがでしょうか。

【事務局】

展示については、昨年度から取り組んでいる樹脂標本を展示室に配置しました。砂丘の模型と含めて、来館時に目が付くので多くのお客様が手に取って観察し、観察園への誘導に繋がっているように見えました。こちらの点については、かなり効果があったと思っています。

体験プログラムでは高校生での授業も増えますので、新しいプログラムとして整え、実施検証を続けていくことになると思います。

【溝渕会長】

ありがとうございます。例えば、猛暑の影響などがあれば、調査結果の詳細データではなくてもよいのですが、何か特別なことがあればご紹介をお願いします。

【事務局】

今年度だけではありませんが、ここ数年石狩浜ではドクガが大量に発生しております。保護センターの中は駆除をしているので野外地よりは影響が少ないですが、調査中に見られたのが、葉が食べられすぎて、花付きが遅いような気がしています。また、例年だと8月くらいに生長する植物が前倒しで大きくなることで、海浜植物を覆ってしまう状況も見られました。

【溝渕会長】

ありがとうございます。もう1点、事務局の体制の変更について、委員の皆さんも気になるところかと思うので、教えていただければよろしいでしょうか。

【事務局】

体制についてですが、昨年から正職員が1名減となりましたが会計年度任用職員については変わりありません。次年度以降についても会計年度職員の人数の変更はないと考えています。正職員につきましては、先ほどお話がありましたが、職員の体調不良があったため実働としては2名となっています。

【溝渕会長】

ありがとうございました。それでは松島委員から最近の取り組みなどの紹介と、事務局報告の対するご質問・ご意見等をお願いいたします。

【松島委員】

北海道大学の松島です。よろしくお願いいたします。最近は浜益のグリーンインフラ事業ということで、海水浴場から道路に飛んでくる飛砂問題を砂丘の力を使って解決できないかという事業を進めています。砂丘ができることで、植生が復元し、そこに生物も増えているかを毎年モニタリングしています。今年度については、アンケート調査も実施し、海水浴場の利用者へ海浜植物が利用の邪魔になっているか調べました。まとめの途中ですが、全体的な傾向として、取組について説明をしていることもあって、あまり気にしていない、関係ない、海浜植物があったほうがいいよねという内容が多い傾向でした。事前に周知することで理解につながるのので、普及啓発の重要性を感じています。

報告についてですが、現状活動体制と労力について確認したいです。イタチハギやチガヤが増え、維持管理するのは非常に大変だと思いますが、現地の取組での実感や感想を伺いたいです。

【事務局(植物ラボ)】

再生園を作り始めたときは、ハマナスを中心に増やして利活用も並行して実施していました。現在は、目標をずらし、海岸草原の植生を含む形で、ハマナスの活用ができるように維持しています。イタチハギはまだ入っていないのですが、チガヤはなくすることはできないと考えています。花摘みや実摘みの体験、子どもたちが観察できるように目標を置いているという状態です。ハマナスが実際に衰退し始めたときは、また考えなければなりません。具体的な将来展望があるかといわれると、検討している最中です。

【松島委員】

ありがとうございました。植生自体は変化する場所なので、維持管理しつつ変化するのとは仕方ないですね。そういった中で、目標とするハマナスの維持管理が困難になるレベルかがポイントになると思います。そういった状況は皆さんと共有しながら今後のことを考えていく必要があると思いました。

【溝渕会長】

松島委員のご指摘について、報告書にも記載いただけると良いかと思います。植生遷移の中でハマナスの衰退がはじまった際にどういった対応が必要になるかという課題が残されていると良いかと思います。

また脱字ですが、13 ページ 3-2 で普及啓発の部分が「活」のみになっているので修正をお願いします。

次に西川委員をお願いいたします。

【西川委員】

道総研の西川です。右岸の聚富地域の海岸をフィールドに海浜植物の再生試験を実施しています。試験を開始してから 5 年経過したので、これまでのまとめの作業に入っています。先ほど松島委員から維持管理に関してのお話がありましたが、私は体験学習などの事業や調査に関して伺いたいです。はまなすフェスティバルは、盛況で地域の行事として定着しているように感じます。環境学習も、とても充実してきている印象を受けました。学校教育に取り入れられているということが、地域を知る活動として重要だと思っています。自然体験をすることが少なくなっている中で、石狩浜はとても良いフィールドなので、これからも続けてほしいと思っています。

そのためにも、重ねてのお願いですが、人が足りていないと思います。調査研究に関しても、人を増やす方策はないのでしょうか。委託事業では、調査をお一人でやられていると思いますが、計画で示されている調査を全て実施できているのでしょうか。とりまとめの作業は閉館後と報告がありましたが、フィールドの調査に無理があるのではと思います。

【事務局】

人事部局には要請しているところですが、体制が解決しない状況です。引き続き人事部局には要請を続けていくところです。

調査についてですが、5月のイソスミレ調査を実施し、6月にエゾスカシユリやエゾチドリ分布調査を確認しています。7月になると植生調査に入るという流れです。7月にできない部分は、9月に補填的に実施するという流れになっています。この中に出てこない自然保護課の業務もあるので、今年度についてはハマボウフウの調査については全く見ていないです。調査人工については、1人から2人です。

【西川委員】

ハマボウフウは今回できなかったということですが、調査業務はこれからも増えていくと思われるので、人を増やす努力とともに、調査全体を一度見直して、年に一度、数年に一度といった頻度も含めて整理の時期に来ているのかなと感じました。

【溝渕会長】

西川委員ありがとうございました。西川委員のご意見ですが、事業計画には入れておいて、今年度は実施しないという整理の仕方をご検討いただければよいかと思います。長谷川委員の音声の調子が悪いようなので、氏家委員にお願いいたします。

【氏家委員】

石狩中学校の昨年まで総合担当でした。今年度1年生の総合学習で一緒に石狩浜へ行き、海浜植物や漂着物について学びました。そのあと、個人での探究活動に入りました。今回の学習は、産業と自然環境の2つの学習テーマから選択して学習しています。今回の学年は12人で、そのうちの半数近くが自然をテーマに発表していました。当初の予定では、9月頃にグループ探求を進める予定だったのですが、参加まで進められませんでした。探求学習の発展で、はまなす再生プロジェクトに興味をもって進めていた生徒もいましたので、来年度については、ハマナス再生園での取組みに参加できるような機会を設けていただけると、よりより授業に発展するのではないかと考えています。

【溝渕会長】

ありがとうございました。氏家委員のお話も含めて事務局から何かありますでしょうか。

【事務局】

実摘みや除草について検討いただきありがとうございます。時期と日程さえ合えば、学校が実施しやすいように組み立てますので、ご相談いただければ対応させていただきます。

【溝渕会長】

石狩中学校はセンターから一番身近な学校ですので、引き続き連携を深めていただければと思います。

学校との調整については、正規職員との間に誰か入っていただけると良い印象を受けました。先ほどのお話のとおり、どういった業務に人材を割り振るかだと思いますので、その点についてもう少し模索しながら進めていければと思います。次に鈴木委員お願いいたします。

【鈴木委員】

松島委員と一緒に、東北での海辺の再生活動や浜益の活動のお手伝いをしています。小学生たちと一緒にタネを拾って、苗を作って、植えるという作業を含めて、海辺の環境について知ってもらう活動をしています。その際には一般の方にも普及啓発活動に参画してもらうことが多いです。福祉系のNPO法人の理事もしていますので、そちらでもハマナスを利用しています。ハマナスに限らず、ヒシの実を食べるアイヌ料理を教えてもらいながら、みんなで剥いて食べるという活動を通じて自然が好きなファンを増やしています。

保護センターも少ない人数で活動しなければならない状態で、大変かと思いますが、別のセクターとつなげて利活用が広がれたらと思っています。

また松島委員からの話もありましたが、見本園はかなり維持するのは大変なのだろうと思います。優先順位の問題もあると思いますが、環境が変化して内陸化を食い止めるのは難しいと思います。目の前に自然や、野生のハマナスがあるので、保護区という規制の中で難しい部分もあると思いますが、自然のハマナス利用についても考えていく方法を見つけられると良いのではと思います。

【溝渕会長】

ありがとうございます。鈴木委員の、ボランティアや市民活動団体と担い手、観察園の優先順位の2点について、事務局からご回答いかがでしょうか。

【事務局】

ボランティアさんにつながりについてですが、センター外での事業は増えております。CISE ネットワークのイベントに出展、今年度は青少年科学館のイベントに参加してきます。多くの形で関われる機会が増えておりますが、職員や会計年度任用職員で対応しています。ボランティアさんのご協力をという方法もあるのかもしれませんが、現在進めている体験プログラムが、クラフトなど資材が有限であるものが多く、無制限に実施できるものでもありません。なので、現状の中でやれる範囲で活動しています。

2つ目に小学生の受け入れなのですが、市内の多くが小学校の先生たちが実際に見学へ施設に直接アポをとっている形がほとんどです。昨年度ベースの授業内容を確認して、その内容を今年度の児童に落とし込むということが例年見受けられるので、学校と施設の間に入って何かを実施することはあまりないです。

3つ目の観察園についてですが、植生調査をした内容をベースに作成しています。大まかに、石狩浜の植生を再現する再現区、短い距離で海浜植物を見ることができる見本区、ハマボウフウの生育を毎年観察するハマボウフウ畑、根の観察を体験できるほりほりゾーンなどがあります。そのほかのゾーンはハマナスをベースにして、一部は現状区ということで現在の石狩浜のようにススキやアキグミを歩くのに支障がない限りは手を入れずにおいてあります。業務としては、再現区の後浜、第一砂丘、第二砂丘の植生については、作業が植物の生態を考えてしなければならないので、誰でもという作業ではないのが正直なところです。

ハマナス再生園についてですが、再生園の管理はセンターの業務として実施しています。商品やイベントについては、ハマナス協議会で進めています。そこに関わる事業者さんやお客さんが発信者となって広がり始めています。

野生地でのハマナス利用についてですが、やはり観察路があって車いすや杖を使う方、小さい子が触れあうためにも園路の確保は必要だと認識しています。今後もいろいろな意見を言い合えたら良いかと思います。

【鈴木委員】

ありがとうございました。

【溝渕会長】

例えば第一次産業と福祉の農福連携のような取り組み方が、保護センターの活動にも転用できるかもしれません。鈴木委員がご関わりをお持ちですね。再生園について福祉関係の関わり代はあるのでしょうか。事務局からいかがでしょうか。

【事務局】

再現区については、基本的に高橋と内藤さんが手をかけています。ただ、ハマナスの花を摘むとか、ある植物をとるという単純な作業であればお手伝いしてもらえる可能性はあるかもしれません。

少し話はそれますが、今年はデイサービスの子どもたちがクラフトをしにセンターへ来てくれることが多くありました。そういった方たちの利用も増えてくると、今後の幅が広がると感じています。

【溝渕会長】

大変貴重な情報でした。石山委員がそうした取り組みとは関わりが強いと思います。鈴木委員も就労継続支援の関わりがあると思いますので、引き続きご意見伺えたらと思います。また、西川委員からご意見がありましたが、人員と予算について利用者の安全確保に関連して考えていただければと思います。

それから、スクールバスなど使われていない時間、時期などと組み合わせて実施する活動もあると思いますのでそちらも利用してはいかかかと思いました。次に小林委員お願いいたします。

【小林委員】

花畔で農家をしており、母の実家が石狩市志美の出身で、幼いころから石狩浜に触れていました。子どもも石山委員を通じて保護センターでのイベントやハマナスフェスティバルに参加しています。

普段は野菜を育てているのですが、気候変動によって普段発生しない昆虫が出てきています。特にお盆から9月にかけてトウモロコシにアワノメイガという蛾が発生しています。トウモロコシとは違いますが、保護センターの植物にもどういった変化があるのか、生産者としても気になっています。もし、ここ数年の昆虫の発生状況の変化があれば、情報発信いただけると有益かと思っています。

また、本町地区へのバスが廃止される点について、オンデマンドという形は残りますが、基本的には住民が利用するものだと思っています。保護センターや利用者の方に影響があるか、頭に入れながら活動をする必要があると思っています。

【溝渕会長】

ありがとうございます。昆虫についてと、アクセスについて事務局よりお願いいたします。

【事務局】

昆虫は年変動がみられる種もいるので影響は分かりませんが、ドクガの孵化する時期が例年は9月下旬のイメージでしたが、今年は9月頭にはすでに発生していました。あとは、湿度が高かったのが影響したのか、クラフトの材料にかなりの虫が湧いてしまいました。今後もこういった気温が続くのであれば、対策を考える必要があると思っています。

バスの件に関してですが、イベントの開催と並行して意識をする必要があると思っています。リピートしてイベントに参加している来館者もいらっしゃるのので、参加と合わせてオンデマンドの登録を告知するなど、何らかの対応の必要性を感じています。また、普及啓発も、図書館などの住宅地に近い施設を活用した取り組みを検討しています。

【小林委員】

バスについては避けられないので、委員の皆さんにも情報共有をすることが大切かと思い話題にあげました。昆虫についてですが、農研機構でも出ています。しかし、総合的なデータベースはないので、多様な昆虫のデータが集まって、自然の変動が見えてくると良いなと思いました。うちの畑では、マメにつく虫がほとんど増えていないので、何か傾向が見えてくると面白いと思っています。

【溝渕会長】

モニタリングの役割は重要ですね。また、バスの減便の影響について、通常センターには車でしか行かないので、とても関心を持ちました。交通機関が減ることを補うために、アウトリーチ型の体験プログラムの増強ということがあると思いますが、人員との兼ね合いもあると思います。体験プログラムの提供について、関係者の皆さんのサポートがあればと思います。

委員の皆さん、他にご意見やご質問等、ありますでしょうか。

センターの利用状況については、どのような変化があるでしょうか。

【事務局】

今年については、Google マップのコメントに記載いただくことが多く、また多種多様な海外の旅行者が見られていた印象を持っています。

【溝渕会長】

SNS で情報収集している方だと、インスタや Google マップを使われる方が多い印象です。そうしたSNSに取り上げられた情報も、成果として報告できれば良いかと思います。

それでは事務局にお返ししたいと思います。次回の予定についてはいかがでしょうか。

【事務局】

2月を予定しております。

【溝渕会長】

今回は、閉館後に実施する調査結果や、次年度の事業計画になるかと思いますので、今回の意見を整理、反映しつつ、今年度の計画を進めることができればと思います。それでは事務局にお返しいたします。

【事務局】

これで、令和7年度第1回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会を終了いたします。ありがとうございました。

議事録を確認しました。

令和7年11月19日

石狩浜海浜植物保護センター運営委員会

会長 溝 渕 清 彦 